

武庫川のヒメジュウジナガカメムシ (続報 2)

新家 勝

I はじめに

Trotidothorax belogolowi Jakovlev ヒメジュウジナガカメムシ (以下本種という) の生態については、本誌第 10 巻 1 号および第 11 巻 2 号で報告してきたが、産卵場所の発見と各令幼虫の図解の作成が宿題になっていた。昨年はこれらを済ませるつもりでいたが、かねてから心配していた棲息地の破壊のため報告できなくなりました。そこで幼虫の図解については終令幼虫のみとし、代りに本種の観察を始めた 1981 年以降の分布状態について詳細に報告する。

II-1 分布状態

武庫川とその周辺における本種の分布状態を、ガガイモ (以下食草という) の分布とあわせて表 1 に示す。また、表中に示される本種とその食草を確認した地点の概略を図 1 に示す。

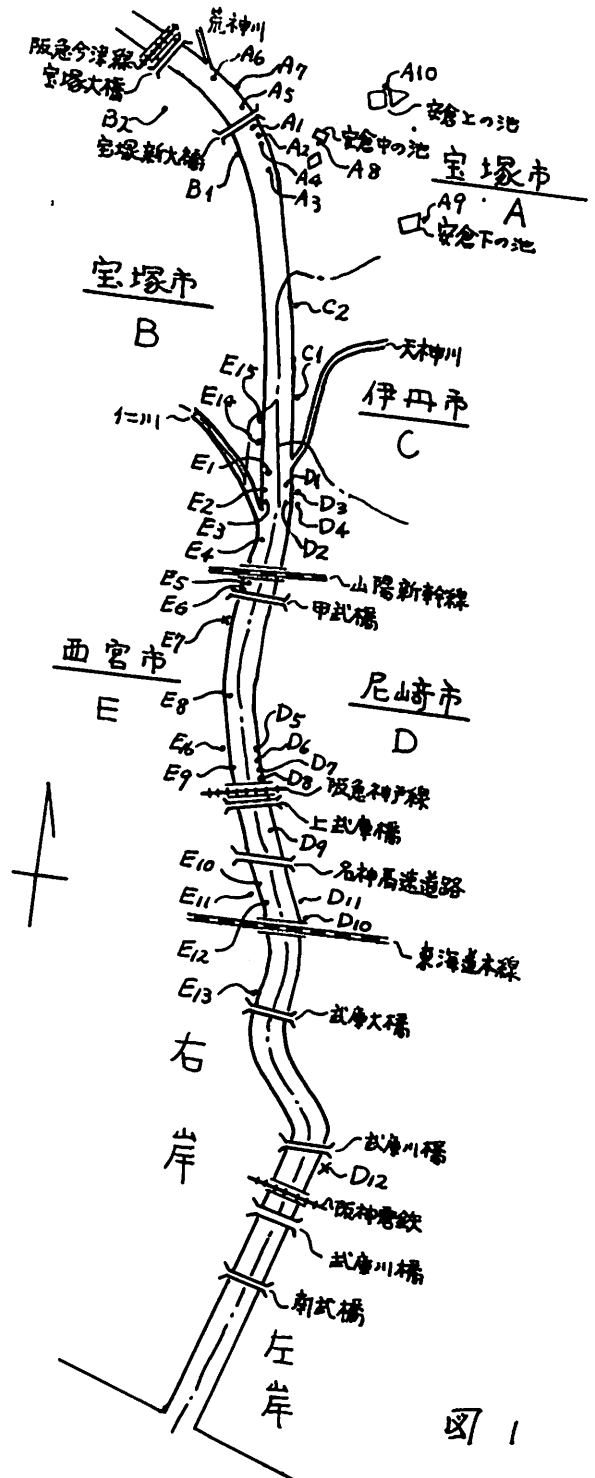


図 1

表 1

地点	年	1981	1982	1983	1984	備 考
A 1		○	◎	◎	○	1978年および1979年に本種と食草を確認。 河川工事のため食草はほぼ全滅。復活後、不法耕作のため全滅。 1983. 9. 28の大水で本種絶滅。 1984年末の河川工事のため食草全滅。 1983. 9. 28の大水のため本種全滅。 1983. 9. 28の大水のため食草は土砂に埋没。 道路脇であり、食草の生育不良。 武庫川堤防から約500 m離隔。 武庫川堤防から約1100 m離隔。 武庫川堤防から約1300 m離隔。
A 2		○	◎	◎	○	
A 3		○	○	×	×	
A 4		—	◎	◎	○	
A 5		—	◎	◎	○	
A 6		—	—	○	×	
A 7		—	—	○	○	
A 8		—	◎	○	◎	
A 9		—	—	—	◎	
A 10		—	—	—	○	
B 1		—	○	○	○	武庫川堤防から約300 m離隔。除草のため食草全滅。
B 2		—	◎	×	×	
C 1		◎	◎	◎	×	1981年に大発生観察した場所。1983. 9. 28の大水のため壊滅的な打撃を受け、堤防側面の食草に一部生き残っていたが、1984年初の河川工事のため本種、食草とも全滅。
C 2		—	—	◎	○	
D 1		○	○	×	×	1981. 8. 1～2の台風10号のため埋没。 同上
D 2		○	◎	×	×	
D 3		—	◎	○	○	
D 4		—	○	○	○	
D 5		◎	×	×	×	
D 6		◎	○	○	○	
D 7		◎	○	○	○	
D 8		—	—	○	○	
D 9		—	◎	○	×	

D 10	◎	◎	◎	○	再三の除草のため食草の生育不良。1984年は本種発生せず。
D 11			○		食草なし。セイタカアワダチソウでの吸蜜を確認。
D 12	×	×	×	×	1942年に初めて採集した場所。
E 1	◎	×	×	×	河川工事のため食草、本種とも全滅。
E 2	○	○			食草なし。カワラサイコでの吸蜜を確認。
E 3	◎	○	○	○	不法耕作のため食草激減。
E 4	○	×	×	×	河川工事のため食草全滅。
E 5	◎	◎	○	×	1982. 8. 1～2の台風10号で本種は全滅。 1982初の河川工事のため激減した食草は 1983. 9. 28の大水で土砂に埋没。
E 6	—	—	○	○	
E 7	×	×	×	×	1955年に本種と食草を確認した場所。
E 8	○	○	×	×	
E 9	—	○	×	×	1983年の河川工事のため食草全滅。
E 10	—	○	○	○	
E 11	○	○	○	○	
E 12	—	◎	◎	○	再三の除草のため食草の生育不良，1984年は本種発生せず。
E 13	○	◎	◎	○	1982年に大発生を確認した所。不法耕作のため食草は激減，生育不良。
E 14	—	—	○	◎	1984. 11. 13屋内で1頭確認。
E 15	—	—	—	○	1984年末の道路工事のため食草全滅。
E 16	—	—	○	○	

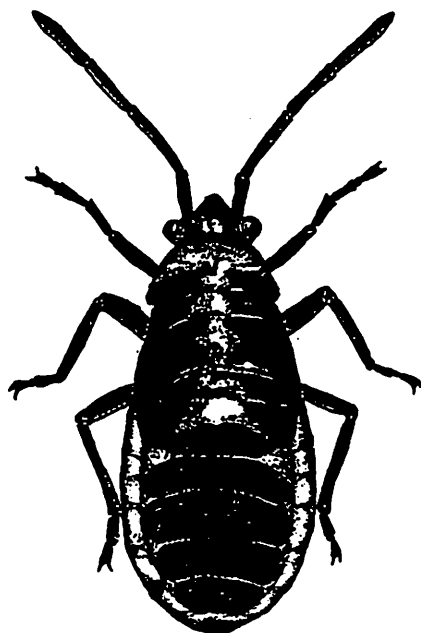
表中、◎は本種の棲息確認，○は食草の生育確認，×は食草の絶滅，—は本種，食草とも未確認を示す。

以上のように、食草の場所は数の上ではさほどの変化はない。しかしながら、大水、河川工事、不法耕作および公園化に伴う頻繁な除草のため食草の群生地は失われ、残った所も生育がよくない。以前は年間を通じて武庫川中のどこかで本種を見つけることができたのに、昨年1箇所を確認しただけである。しかも食草またはその周囲での確認ではなく、筆者の勤務先の建物（旧武

庫川堤防にあり、敷地には食草が多少生えている)内での確認である。他は武庫川堤防以外での確認であり、時期的にも限られたものである。従って、生態の観察をするどころではなかった。

II-2 終令幼虫

終令幼虫は5令で、体長は6~7ミリ、発育の良し悪しによってこれらよりやや小さいものや、大きいものもある。体は橙赤色であるが、成虫に比べて赤味がやや少なく、光沢に富んでいる。腹部上面中央には第2腹節から第6腹節にまたがる大きな黒斑がある。また左右の前翅および後翅となる部分も黒色である。胸部上面左右の黒斑は中央より後方にあり、成虫のように前方まで伸びない。頭部および脚は黒色、触角もまた黒色である。



ヒメジュウジナガカメムシ終令幼虫

III ま と め

本種をとりまく武庫川的環境は極度に悪化し、僅かばかりの個体を見つけるのがやっとという状態になってしまったので、今後の観察は非常に困難である。できれば捕獲して極力模擬した環境で飼育し、産卵場所の発見と各令幼虫の図解の作成につとめたい。

宍粟郡波賀町のムラサキツバメの記録

勝 屋 潤

ムラサキツバメ (*Narathura bazalus* HEWITSON) は兵庫県に於いては相生市、赤穂市、神戸市等で採集されているに過ぎない稀種である。

兵庫県に於けるムラサキツバメの記録

- | | | |
|------------|-------------------|---------------------|
| 1. 明石市北王子町 | ?, ? - Ⅷ - 1959 | 小林 進 ¹⁾ |
| 2. 明石市大久保町 | 1 ♀, 4 - Ⅸ - 1959 | 竹内 崇郎 ¹⁾ |
| 3. 多紀郡篠山町 | ?, ? - ? - 1957 | 基田竜太郎 ²⁾ |